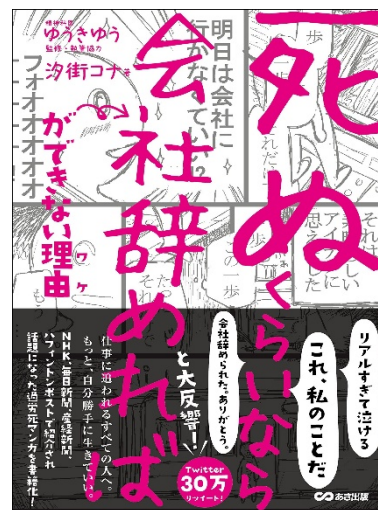


「死ぬくらいなら会社辞めれば」ができない理由^{ワケ}

監修：ゆうきゆう 著：汐街コナ 発行：あさ出版

ここ数年、「ブラック企業」という言葉をいろんなところで聞くようになった。友人から「その会社って完全にブラックやろ」と思えるような話を聞くことも多い。友人らは今のところ笑い話にしてはいるが、ブラック企業で働いた結果、がんばりすぎて過労死してしまう人や自殺してしまう人もいる。

おそらく多くの方は「死ぬくらいなら会社辞めたらいいのに」「そこまでがんばる必要なんてあるの？」と思うだろう。僕もこの本を読むまでは同じように思っていた…。



この本では、「かつてブラック企業で働いて、うっかり自殺も考えた」という著者が、当時どのような精神状態で、どのような形でどのような教訓を得て、その後どのように状況を変えていったかなどについて、体験漫画をおして語っている。

実体験をおして得てきた仕事に対する向き合い方について、精神科医からのアドバイスを交えながらわかりやすく書かれており、また、責任感の強い人や努力する人、他人に優しい人や配慮できる人など、本来なら報われるべきはずの人ほど危ないという、ブラック企業と呼ばれる会社特有の恐ろしさや、その根っここの部分を支えている日本独特の「仕事観」や「自己犠牲の精神」についても、よく理解できる内容だった。

自分を犠牲にしてまでがんばってしまう人や自分の限界に気がついて辞められない理由を探してしまう人たちに向けて書かれた本であるが、他人をうらやむのではなく妬んでしまう人や仕事における苦勞・不幸自慢をしてしまいがちの人にも読んでもらい、そして自身の働き方や考え方を変わっていくきっかけにしてもらえればと思う。

真面目に働く人ほど死ぬかもしれないという理不尽な労働状況を変えていくには、一人ひとりがそのことに気づいて声を出していくしかない。